

のら犬ボン

「のら犬ボン」を読んで

北上市立黒沢尻北小学校 四年

林 心咲

1
どうしてボンをすてるの十代で、
強いいかりと悲しみが、一気におしよせて
きて、なみだがこぼれそうになりました。こ
私の家ではねこをかっています。名前はコ
タロウ。最初はのらねこでした。
コタロウをかうことになった時、母が言っ
た言葉を思い出しました。

2
「ねこは人間より早く年をとるの。私たちよ
り早く最後の時がくる。その時をむかえる
かくごはある？」

その時私はまだようち園生だ。たけど、いつ
にない母の真けんな表じょうに「かくご」を
決めた記おくがあります。

この本を読んで、今の私には、あの時の母
の言葉の意味がはつきりと分かったような気が
がします。

ご飯やトイレのお世話をちゃんとしてあげ

ること、いっばいあそんであげること、ボンのように足が三本になっても、年をとって具合が悪くなることが多くなっても、家族の人として愛じょうをいっばい注いで大事にしていくこと。そしてどんなことがあっても、最後まで一緒だということ。

3
ボンはずすてられて、こわい思いやいたい思いをたくさんしたのに、一年後、としおやお父さんお母さんを見つけると、ちぎれるほどしっほをふりました。大好きだった家族の

4
ことをずっとおぼえていたのですね。

そして、青空クラブの人の言葉に私もハツとさせられました。

っどうかこの子を思いやってください。

今まで私がだっこしたい時にだっこして、私があそんであげたい時にねこじやらしを持ってきていました。だっこされたくない時やあそびだくない時もあつたよね、きつと。ニヤーとしか言えないコタロウ。いたい。暑い、さみしい、私のように文句が言えません。コ

タロウの気持ち想像して、考えてせつして
いきたいと思いました。

ボンとしお、お父さん、お母さんも、一
年前のようになかよく、これからはずつとし
あわせでいてほしいなとばかり思いました。

あいごセンターのかなしい仕事は、年間五
万をこえることをニュースで知りました。人
間の都合だけで無責任にかいすてられるペッ
トが多いのが現実なのだそうです。

この本を読んで強く感じた、動物の心を

6

みんなが想像し、考えて、思いやることがで
きたら、かなしい仕事をへらすことができる
んじゃないかと思いました。そしていつか、
その仕事が無くなる日がくればいいなと思っ
ます。

コタロウ、ずつとながよしでいようね。コ
タロウの気持ちを考えるのと同じくらい、お
友だちの気持ちも考えてみんなとながよくで
きる人になりたいな。これからもずつと一緒
だよ。楽しい思い出たくさんつくろうね。